

【資料 1－3】

平成 21 年度第 2 回審査会後の書面による質問・意見等と事業者の見解

No	方法書 ページ	質問・意見	事業者見解
1	2－19	本工事は約 10 年をかけて行われる予定となっています。手続きとしては、今後、準備書、評価書を経て工事が着工されますが、工事完成後にこの環境影響評価方法が適切であったか、または事前評価の予測が正しかったか等の検証は行われるのでしょうか。 長期におよぶ工事では、周りの環境もかなり変わると思うので、一口に検証といっても難しいとは思いますが、たとえば同様な工事を行った横浜火力発電所や川崎火力発電所では新発電方式稼働後に検証的な環境調査は行っているのでしょうか。	横浜火力発電所や川崎火力発電所では通商産業省の省議決定に基づく環境影響評価手続きを行っており、こちらに従い建設工事中及び運転開始後の環境監視を実施しています。 本計画においても建設工事中及び運転開始後について、法令等の規定や、事業特性、地域特性の観点から環境監視計画を作成し、環境影響評価準備書においてお示しします。
2	2－12	環境基準のある「大気質」と景観とのトレードオフを考えるのは適切ではない。	「景観への配慮」は、大気質に関する環境基準等を満たす範囲内の措置と考えています。

No	方法書 ページ	質問・意見	事業者見解
3	4.2-10	・ 年平均値予測において、原子力保安院のマニュアル、NOx 総量規制マニュアルの方法が適当ではないので、検討のお願いをしたのであって、それにもとづいての実施は不適当である。「今後を検討する。」という回答は「もう一度、予測の方法についての検討（方法書の検討）をやり直してください」という意味ですか。 ・ 建物ダウンウォッシュについて、S 発電所、K 発電所での PRIME モデルの利用実績があるということですが、そこでの担当者がモデルの不備に気が付かなかっただけのことではないのですか。事後調査等で、妥当性の証明についての論文または報告（報告の場合は審議が必要）があれば、提示してください。 ・ 煙突ダウンウォッシュについて、風速比 V_s/U について、1.5 が一般的と言う根拠（学術論文）があれば提示してください。私が知る限りでは、事業者の考えているような形状の煙突について、1.5 が適当という論文は見たことがありません。たとえば、電力中央研究所など事業者が相談しやすいところに行かれて、相談するなどの対応を期待します。 ・ 私が知る限りでは、事業者の考えているような形状の煙突について、CONCAWE 式の整合性が良いという論文は見たことがありません。今回の計画の形状の煙突について、CONCAWE 式 が適当であるという根拠となった論文を提示してください。	排熱回収ボイラ及び煙突の形状については、別添図の（a）～（c）案を検討しています。これらの案について、建物ダウンウォッシュ（ダウンドラフト）の発生頻度を検証し、年間出現頻度が高いと判断された場合は、建物ダウンウォッシュを実行可能な範囲で低減するよう、煙突や排熱回収ボイラ高さ、設備の配置などについて検討していきます。 年平均値予測手法、建物ダウンウォッシュ発生時・煙突ダウンウォッシュ発生時等の予測手法については、適切な予測結果を得られるよう、学識経験者の助言を受けながら実施いたします。